

新技術の提案(様式2-1)

NO.

作成日 令和6年10月28日

分野	1. 土木	工種	2. 河川		
技術の名称	流木捕捉工 J-HDスリット			NETIS 番号	
副題(商標名等)	J-HDスリット			登録(申請)年月日	
応募技術条件 チェック	次のいずれかの項目に適合(該当項目の□をチェック下さい)				
	☐ 県内に本社のある建設業者等が開発したもの。				
	☐ 県内に本社のある建設業者等(協会、組合等を含む)が中心となって開発したもの				
	☒ 県内に自社工場のある建設関連企業等が開発したもの(千葉工場 千葉市)				
効果	右番号から選択 1,2,3,4,5,6	1 コストの縮減 2 安全性向上 3 品質の向上 4 工期の短縮 5 環境	6 施工性の向上 7 その他 効果を選択した理由を 下記概要や特徴に含めて 記入してください	分類	右番号から選択 1,2 1 工法 2 材料 3 機械 4 情報 5 その他
開発者 (提案者)	会社名	JFE建材株式会社			
	住所	東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス	TEL	03-5715-7640	
問合せ先	会社名	JFE建材株式会社			
	担当部署	防災商品営業部 防災商品室			
	氏名	的場/占部			
	住所	東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス			
	TEL	03-5715-7640	FAX	03-5715-1035	
	URL	https://ife-kenzai.co.jp/product/category/disaster-prevention-products/			
	E-mail	k-matoba@ife-kenzai.co.jp / h-urabe@ife-kenzai.co.jp			
概要	既設の不透過型砂防堰堤に鋼製透過型流木捕捉工を後付けすることで、流木捕捉機能を付与することができる。				
特徴	・既設の不透過型砂防堰堤を有効活用するため、新たな用地取得不要。 ・本堤の改築不要。(安定計算結果による) →本堤腹付け無:21件(実績67件中) ・本堤の水通し機能を損なうことなく、流木捕捉効果を付加することができる。 (既設の不透過型砂防堰堤では、流木の確実な捕捉は難しい)				
施工方法	調整コンクリートを打設後、堰堤上流側にアンカーボルトを設置し、下段・上段フレームの順に据付。 上下組立後、間隔の調整を行い、高力ボルトで本締めをする。				
施工・材料単価(従来との比較)	新工法のため。比較不可。				
適用条件範囲	土石流区間および掃流区間				
施工・使用後の環境への影響	・既設の不透過型堰堤に後付けする流木捕捉工のため、 ①堰堤の改良工事不要 ②既設堰堤のコンクリート打ち増し不要 ⇒工期短縮することができ、自然環境への影響が少ない。				
施工・使用上の留意点	J-HDスリットで使用するアンカーは、堰堤と本体を繋ぐ重要な部材であり、品質について留意が必要である。				
実績状況(相手先、件数など)	施工実績:67件 →67件(国:件 県:40件)				
その他(特許番号、各種適合基準、グリーン購入法、建設技術審査証明書・GISなど)	・J-HDスリット:建設技術審査証明取得(技審証第2202号) (新編「鋼製砂防構造物設計便覧<令和3年版>」張出しタイプ流木捕捉工設計の手引き)				

＜J-HDスリット＞

・近年の土砂災害の特長

→ 近年、砂防堰堤等が整備されている流域において、土石流発生時に流木が砂防堰堤を越えて流出する現象が確認されている。

また、土砂・洪水氾濫時には流木により被害が拡大する事例もある。

⇒ **現在整備されている不透過型砂防堰堤では、流木の確実な捕捉は難しい。**

流木による被害を減少させるために、砂防事業として流木対策を推進。

・J-HDスリットとは

→ ①既設のコンクリート不透過型砂防堰堤の改築が不要

②追加の用地買収不要

③施設効果量が減少することもない

⇒ **既設の不透過型堰堤に極力手を加えず、流木捕捉効果を付与する技術**

・施工実績

→ 国: 20件

県: 47件

・施設効果事例

→ 2017年に発生した九州北部豪雨により、過去最大級の流木被害が生じた。このことをきっかけに、国では既設の不透過型砂防堰堤に流木捕捉効果を付与する対策工の整備を強く推進しており、既設堰堤を有効活用できるJ-HDスリットの整備も進んだ。

その結果、福岡県では、2023年7月、既設の不透過型砂防堰堤に付与した流木捕捉工「J-HDスリット」が施設効果を発揮。

また、長野県では、2021年8月の豪雨により発生した流木をJ-HDスリットが捕捉し、下流への流木の流出を防止した。

